

# 二〇二六年度 三田学園中学校入学試験問題

## 前期B日程 国語

〈注意〉各問題の解答はすべて解答用紙に書き入れなさい。

※出題の都合上、漢字にふりがなをふる、漢字をひらがなにするなど、本文の一部に改変を行っています。

※特に指示のない限り、字数制限のある問題では句読点や記号も一字として数えます。

受験番号	
------	--

# 一、次の文章を読んで、あとの間に答へなさい。

「悪口はどうして悪いの？」と聞かれたとき、もっともシンプルな答えは、「人を傷つけるから」というものでしょう。理由なく人を傷つけることは悪いことで、悪口も、足で蹴るといった身体的暴力と同じように人を傷つけるので、悪口は悪い、という発想です。

殴る、蹴るとは違い、悪口によつて、血が出たり、顔がはれたりするわけではありませんが、場合によつてはそれと同じくらいか、あるいはそれ以上の精神的なダメージを受けることがあります。結局、苦痛というのは脳の活動によつて生み出され、身体の痛みも心の痛みも、似たような脳の働きに由来すると考えられています。身体が痛いことが悪いなら、心が痛いことももちろん悪いわけです。

子どものとき、「そんなこと言われたら傷つくでしょ、嫌な気持ちになるでしょ」と、注意されたことはないでしようか。私たちは人を傷つけることを避けようとします。

「悪口が悪いのは人を傷つけるから」という考えは、とても常識的ですが、悪口の悪さをそれほどなく説明できません。まず、悪口以外にも、人を傷つけることば、精神的なダメージを与えてしまう発言がたくさんあります。たとえば、「残念ながら不合格です」「私たち別れよう」のように、自分の期待や希望にそぐわないことを言われてしまうことは、誰にでもあります。そして、それによつて、ときには立ち直れないほどに深く傷ついてしまうことすらあるでしょう。しかし、こうした発言は、もちろん悪口ではありません。ですので、ことばが人を傷つけるからといって、悪口になるとは限りません。

このポイントを、論理的なことばを使って言いかえてみると、「人を傷つけることは悪口の十分条件ではない」となります。ここで十分条件の例をあげておきます。ある人が自分の卒業証書を受け取つてすることは、その人が卒業したことの十分条件です。自分の卒業証書があることが、その人が卒業していることを十分に示しています。一方、出席日数が足りてていることは、卒業の十分条件ではありません。たとえば、皆勤賞をもらつていても、卒業するための他の条件を満たしていないかもしれません。すべてのテストが〇点だと、卒業させてもらえない学校が多いです。

ついでに、必要条件も説明しておきます。一定の出席日数があることは、卒業の十分条件ではありませんが、必要条件です。ある程度は出席することが卒業するために必要なわけです。一方、卒業式に出席することは、卒業するために必要ではありません。風邪をひいて卒業式に出席できなくとも、卒業できなくなるわけではありません。卒業式への出席は、卒業の必要条件ではないのです。

また、人を傷つけることが、悪口の必要条件でないこともすぐ分かります。【b】、人を傷つけなくても悪口になる可能性があるのです。言つてはいることが誰がどう聞いても悪口だが、言われた本人はまったく傷ついていない例を考えることは簡単です。今から架空の例を出してみます。よければ、みなさんも自分の例を考えてみてください。

Aさんは同じ部活の先輩のBさんが大好きだ。でも、AさんはBさんとつき合いたいとか、結婚したいとか、そのような願望があるわけではなく、アイドルやミュージシャンのファンのような感覚を持っている。AさんはとにかくBさんに会いたい、できるだけ一緒にいたい、と願つてい

る。

一方、BさんはAさんのことを邪魔だと思つていて、「Aはうざい」「Aはきもい」とショッちゅう周りに伝えている。ときには、「きも。帰れよ」などとAさん本人に向かつてさえ言つている。

Aさんはしかし、そのことが気にならない。むしろ、Bさんが自分のことを考えてくれていると思うと、嬉しくなる。目を合わせて、「うざい」とか言つてくれるのを楽しみにしている。

Bさんのことばは、シンプルに悪口だと思う人が多いでしょう。【 ① 】、Aさんは、それをまったく氣にしていないどころか、むしろ喜んですらいます。ですので、人を傷つけなくてもことばは悪口になります。

ひよつとしたら、Aさんは傷ついていないので、Bさんの言つてていることは悪口ではない、と考える人もいるかもしません。では、次のような例はどうでしょうか。

人間は、虐待といつた強烈なストレスが与えられたとき、自分を守るために身体から心を切り離すことがあります。ぼーっとする、夢の中にいる気がする、自分の体験や感情を覚えていない、感覚が麻痺する、といった状態になります。たとえば、すごくいじめられている人が、一種の自己防衛として、何を言われても何も感じなくなつてしまつたとします。感覚が麻痺しているのだから、その人に何を言つても悪口にはならないのでしょうか。そんなことはないでしょう。たとえ、そこでたまたま傷ついていなかつたとしても、痛みも何も感じなかつたとしても、悪口は悪口だと私たちは考えます。

【 ② 】、人が傷つくかどうかや、不快に思うかどうか、という基準ばかりに焦点を当てることで不都合も生じます。いじめられている側が、「やめろバカ！」と、多少乱暴なことばを使って、自分の身を守ろうといたします。そのとき、そのことばづかいは他人に不快感を与えるからやめましよう、などといじめられている側を注意したとすると、これほど不公平なことはないでしょう。

似たようなことは、より広い社会におけるやりとりの中にも見られます。女性や黒人といつた、差別されている人たちが、差別的な社会の仕組みに対して批判の声をあげたとき、その批判の内容ではなく、ことばづかいや言い方に論点をそらせて、黙らせようとする反応があります。「乱暴な発言なので怖いです」「そんな言い方では誰も協力してくれませんよ」といったものです。そうした行為は、「<sup>③</sup>トーン・ポリーシング」(tone policing 口調の取り締まり)と呼ばれています。

ひしひと厳しく叱られたり、批判されたりしたら、言われた側は、たとえ批判されるだけの十分な理由があると自覚していても、不快に感じたり、居心地が悪くなつたりするものです。ことばの悪さが、不快さや痛みのような感覚だけですべて説明されてしまつたら、まつとうな説教ですら悪口になつてしまいますが、それはおかしな結論です。

したがつて、人を傷つけるから悪口は悪いという発想で、悪口を理解することはできないのです。

(和泉悠『悪口ってなんだろう』より)

問一

――部①「殴る、蹴るとは違ひ」とあります、「悪口」と「殴る、蹴る」の同じ部分と違う部分の説明として最も適当なものを次の  
中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人を傷つけることは同じだが、肉体的に傷つけるのが「殴る、蹴る」で、精神的に傷つけるのが「悪口」。  
イ 人を傷つけることは同じだが、相手を傷つけるのが「殴る、蹴る」で、自分も相手も傷つけるのが「悪口」。  
ウ 脳の働きに由来する行動という点は同じだが、肉体的に傷つけるのが「殴る、蹴る」で、精神的に傷つけるのが「悪口」。  
エ 脳の働きに由来する行動という点は同じだが、相手を傷つけるのが「殴る、蹴る」で、自分も相手も傷つけるのが「悪口」。

問二

空らん【 あ 】～【 あ 】に入る言葉として、最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を  
二度以上用いてはいけません。

- ア むしろ イ しかし ウ つまり エ あるいは

問三

――部②「言っていることが誰がどう聞いても悪口だが、言われた本人はまったく傷ついていない例」とありますが、その例にあたる  
部分を本文中から二つぬき出し、最初と最後の五字で答えなさい。

問四

――部③「トーン・ポリーシング」について、

- i 「トーン・ポリーシング」とはどのような行為ですか。説明しなさい。  
ii 「トーン・ポリーシング」の具体例として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 「その意見は、事実に基づいていないから、正しいデータを示してよ。」  
イ 「感情的になる前に、問題が起こった背景を説明してよ。」  
ウ 「私はその考えに賛成できない。あなたが自分の利益しか考えていないから。」  
エ 「『ムカつく』と言われたら聞きたくなくなるよ。もっと冷静になつてよ。」

問五

～～部「十分条件」「必要条件」について次の説明を読んで、後のI～IVの関係は後のア～エのどの関係になっていますか。それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上用いてはいけません。

説明

〔必要条件：「Aであるためには、少なくともBである必要がある」というとき、BはAの「必要条件」。〕  
〔十分条件：「Bであれば、必ずAである」というとき、BはAの「十分条件」。〕

例 A 「卒業」とB 「出席日数が足りている」ことの関係

- ア BはAの必要条件……「卒業」するためには、少なくとも「出席日数が足りている」必要がある。
- イ BはAの十分条件……「出席日数が足りている」のであれば、必ず「卒業」している。
- ウ 必要条件であり十分条件もある……「卒業」するためには、少なくとも「出席日数が足りている」と、必ず「卒業」している。
- エ 必要条件でなく十分条件でもない

答え（ア）

- I A 「試験を受ける」とB 「試験に合格する」ことの関係
- II A 「犬である」とB 「動物である」ことの関係
- III A 「冬である」とB 「雪が降る」ことの関係
- IV A 「冷蔵庫が空っぽである」とB 「冷蔵庫の中に何も入っていない」ことの関係

- ア BはAの必要条件
- イ BはAの十分条件
- ウ 必要条件であり十分条件もある
- エ 必要条件でなく十分条件でもない

問六 一一一 部 「悪口の悪さをそれほどうまく説明できません」とありますか、「うまく説明でき」ないのはなぜですか、本文全体をふまえて説明しなさい。

二、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

白い天井、蛍光灯の眩しい光、ひどい絶望感。

そして、続いている右手の鋭い痛み。頭が、まともに動かないからか、言葉はぶつ切りで浮かんでくる。

僕は身体を起こそうとした。無意識に突いた右手にまた鋭い痛みが走り、声をあげた。痛みに目を向けると、ギプスが巻かれていた。ほんのわずかに指を動かすだけで声をあげてしまう。

すべて、本当のことだつたのだ。

僕は病院のベッドに寝かされていた。カーテンで仕切られた狭い空間で目を覚ました。体を起こそうとすると背中や肩に痛みが走った。そして、右手には夢の中と同じ痛みが続いている。それなのに、僕が一番強く感じているのは、疲れだった。ずいぶん、久しぶりに深く眠った感覚がある。

痛みをごまかすために、大きなため息をつくとカーテンが開いた。

「霜介、起きたのか」

そこには叔父がいた。久しぶりに会う叔父は、白髪が増えすぎてすぐには誰か分からなかつた。気を遣うようにこちらに微笑んだ。<sup>①</sup>僕はその笑顔が苦手だつた。

「ああ、もう大丈夫」と身体を起こそうとすると、全身に鋭い痛みが走つた。

「そのままにしていろ。いま先生を呼んでくる」

そして、またカーテンは閉められて独りぼっちになつた。叔父がいるということは、余程のことが起きたのだと分かつた。右手は見えない。動かしてみた後、ため息をついた。身体も起こせない。そして、ここが正確には何処かも分からぬ。何よりも疲れていて眠い。しばらくして、叔父と医師がやってくると説明が始まつた。

そのどれも予測した通りの内容だつた。

② 右手は骨折、背骨やあばらも鱗が入つていて。脳はこれから検査、何よりひどく疲れていたようで、あれから二日間ずっと眠り続けていたらしい。

「学園祭の片付けがあるから、いまから戻つてもいいですか」と若い医師に訊ねると、

「起き上がるならどうぞ」と言われた。つまり、【X】だということだ。彼は僕の発言に気分を悪くしたようだつた。このまま検査のため数日、入院しなければならないらしい。説明がすべて終わると、叔父と二人きりになつた。

顔を合わせるのは、ずいぶん久しぶりだつた。一年近く会っていない。

二人で向き合うと、<sup>③</sup>言葉が出てこない。他人行儀な挨拶も、世間話もないから、大事なことしか話せない。

するとお互<sup>たが</sup>いの言葉が消えてしまう。大事なことを、僕が素直に話せないからだ。両親が亡くなつた後、僕を引き取り面倒を見てくれていたのに、僕は彼と叔母さんのいる家には帰らなかつた。両親と暮らしていた家に引きこもり、何もしない時間を過ごし、壁を見つめていた。そして、僕の進路を半ば強制的に叔父は決めた。いまの大学に進学させることだ。そのことを恨んでいない。むしろ感謝しているくらいだ。だが、彼はそう思っていない。彼は僕の面倒を上手く見られなかつたことに負い目を感じている。

「そんなことは気にしなくていい。僕は感謝しているんだ」と伝えられれば、それで終わるはずなのに、それは言えない。

叔父と顔を合わせると、両親が亡くなつたころのことを強く思い出す。そのことでまた無気力になつてしまつのが怖くて、彼を避け続けていた。嫌いではない。ただ苦手だつた。

ふいに目が合うと、力なく微笑んだ。やはり言葉はなかつた。責任を感じている、と顔に書いてあつた。責任を感じることの辛さも、少しだけ理解できるようになつた。どんな小さなものでも、責任を背負わなければ、彼の微笑みは分からなかつたかもしれない。

僕は、その笑みに少しだけ父の面影<sup>おもかげ</sup>を感じていた。よく似た兄弟だつたから、そう思つたのだろうか。それだけに彼の感じていることが手に取るよう<sup>いや</sup>にわかる。それが、また、嫌だつた。身体中が痛くて、肩も重く、クタクタだつたけれど、それよりも、この気まずさのほうがいたたまれない。

どうすれば、この状態を抜け出せるのかと頭をひねりながら、なぜだか古前君<sup>こまえ</sup>のことが頭に浮かんだ。彼ならどうするだろう。彼なら、いまの僕と叔父のような関係を世界中の誰とも築かないだろう。彼は、僕がとても落ち込んでいるときも、厚かましい話やどうでもいい話をして関わつてきた。でもそれが彼なりの優しさなのだと三年経つと分かつてきつた。

彼ならいまどんな言葉を発するだろうと思つたとき、<sup>④</sup>僕が一番苦手なことを思いついた。

苦手なことをやってみようと思つたのだ。どうせボロボロだし失敗しても何も失うものはない。

僕は、世間話をしてみようと思つた。

「あのおさ」

と、僕が口を開くと、彼はまばたきをして姿勢を起こした。僕が話しかけるとは思つていなかつたみたいだ。

「この前、墓参りしたんだ」

「霜介が……、か？」

他に誰がいるというのだろう。

だが、僕のこれまでの行動からは絶対に想像できない言葉が飛び出したのは間違いない。僕は先日、椎葉先生とあの場所に行くまで一度も足を運ばなかつたのだ。彼が何度も誘つてくれたにもかかわらず、だ。彼を傷つけただろうかと思いながらも、話を続けた。これは世間話なのだ。

「いいところだね、あそこ。綺麗なお寺の裏で、空気が澄んでいて、花もきちんと供えられてあつた」

「ああ。そうだな。お寺さんがよくしてくれているんだ。私も毎月行つて

知らなかつた。あの美しさは叔父が保つてくれていたものなのだろうか。

「ありがとう」と自然に言葉が零れ、彼が止まつた。

会話が途切れ<sup>と</sup>た。

⑤なぜだか、叔父が変な物を見る目でこちらを見ていた。訳がわからず、彼を見つめた。そして、瞳がゆっくりと潤んでいくのを見ていた。僕は世間話の内容を振り返つていた。何もない。当たり前のことを話しただけだ。

だが、たつた一つだけこれまで叔父に言つたことのない言葉を伝えていたことに気づいた。

「ありがとう」

彼は、僕がそう言つたことに驚いて<sup>おどろ</sup>いるのだ。

僕はやはり間の抜けたところがある。そんな<sup>ささいな</sup>言葉さえ、ずっと伝えてこなかつたのだ。ずっとそう思つていたのに。

何も決められないときに、僕の進路を決めてくれたのも叔父だった。

いまのマンションを用意してくれたのも、僕がいつでも帰つてこられるように実家の手入れをしてくれているのも、両親が亡くなつた後、彼らが残したすべての問題を引き継いでくれたのも叔父だった。

それなのに、僕は何も言えなかつたのだ。それどころか、彼にずっと責任を感じさせてしまつていて。それが、まずいことなのだと、気づいてしまつた。ふいに飛び出した「ありがとう」のせいだ。数年前の僕には、そのことが分からなかつた。そんな気持ちがあることを実感することはなかつた。

ありがとう、と言つてもえなかつたこと<sup>が</sup>、ありがとうと言つていなかつたことを教えてくれた。

「霜介、大人になつたな」と彼は言つた。僕は首を振つた。

「なれないよ。なんでも、うまくできない。やろうとする<sup>と</sup>失敗するんだ。今回も、こんなになつちやつたよ」「でもな」と彼は言つた。

「始めただろう。自分で何かをやつたんだ。本当の気持ちって、自分で何かやつてみないと分からぬものだろう。分かるってのは、失敗じやな

いだろう?」

「そうだね。痛い思いもしたけど」

「次は、落つこちないようにしてくれ。お前が庇つた子どもさん、無事だつたよ」

やつと叔父は微笑んでくれた。水帆ちゃんのことだろう。僕はホッとして、身体の力が抜けて目を閉じた。急に眠気が襲ってきた。

「お前の先生とか、お前の代わりにステージで頑張つてくれた同僚の女の子や友達から、また電話がかかってきそうだから、連絡してくるよ。お

見舞いに来ると言つていた。とりあえず問題はなさそうだから、来てもらうことにするからな」

僕は目を閉じたまま「わかつた」と答えた。

（砥上裕将『一線の湖』より）

問一　　部A～Cの言葉の意味として、最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

A 「他人行儀」

ア 相手を丁重に扱うこと<sup>あつか</sup>

イ 相手に親しみをこめて接すること

ウ 相手に対してもよそよそしくふるまうこと

エ 相手を無視すること

B 「いたたまれない」

ア その場にいられないほどつらい

イ 痛みにたえられない

ウ さけることができない

エ 嫌になるくらい大きい

C 「ささいな」

ア 価値が高く、重要な

イ 日常的で、ありふれた

ウ ごくわずかで、とるにたりない

エ 考えるまでもない、当たり前の

問一

――部①「僕はその笑顔が苦手だった」とあります、「その笑顔」から何が伝わってくるから「苦手」だと感じていますか。解答らんに合うように答えなさい。

問二

――部②「右手は骨折、背骨やあばらも鱗が入っている」とありますが、「僕」はどうしてこのようなけがをしたのですか。本文中からわかるることをまとめて説明しなさい。

問四

空らん【 × 】に入る単語を考え、漢字二字で答えなさい。

問五

――部③「言葉が出てこない」のはなぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 「僕」はけがの影響で痛みがひどいため話すことが難しく、「叔父」も「僕」の体の状態に気をつかっているから。
- イ 「僕」と「叔父」は一年近くも出会っていないような関係で、二人の間で特に話すようなことが無いから。
- ウ 「僕」には「叔父」に伝えるべき大切なことがあるはずなのに、それをありのまま伝えることができないから。
- エ 「僕」は「叔父」の顔を見ると、両親が亡くなった時のこと強く思い出して、みじめな気になってしまふから。

問六

――部④「僕が一番苦手なこと」とは何ですか。本文から五字以内でぬき出しなさい。

――部⑤「なぜだか、叔父が変な物を見る目でこちらを見ていた。訳がわからず、彼を見つめた。そして、瞳がゆっくりと潤んでいくのを見ていた」とあります、「叔父」の気持ちを説明しなさい。

問八

――部の表現について説明したものとして、適当でないものを、次の中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 「白い天井、蛍光灯の眩しい光」という表現からは、視界にあるものを描写することで「僕」が室内で仰向けているということを読み取ることができる。
- イ 「叔父がいるということは、余程のことが起きたのだと分かった」という表現からは、「僕」と「叔父」の親密でない関係を読み取ることができる。
- ウ 「霜介が……、か?」という表現からは、想定外の事態に混乱するとともに、「僕」の成長に喜びを感じている「叔父」の心情を読み取れる。

取ることができる。

工 「急に眠気が襲ってきた」という表現からは、それまでの緊張から解き放たれ、「僕」が安心したということを読み取ることができる。

### 三、次の一部のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① お年玉をチヨキンする。  
② 成功までのカティイをふりかえる。  
③ 研究にジユウジする。  
④ 問題解決にユウコウだ。  
⑤ 計画をじっくりねる。  
⑥ 身をコにして働く。

四、次の言葉と意味の似ている熟語を、後の語群の漢字の中から一字ずつ組み合わせて作りなさい。ただし、同じ漢字を一度以上用いてはいけません。

- ① 欠点 ② 同意 ③ 有名 ④ 天然 ⑤ 理由 ⑥ 出版

語群

名所 自賛 因り  
決著 短然 意原 成行  
決意 短点 著名 然成  
決意 短点 著名 天然  
決意 短点 著名 理由  
決意 短点 著名 出版

五、次の一部にかかる部分はいくつありますか。例にならってそれぞれ数字で答えなさい。

例 私は 昨日 妹の 学校へ 行った。 答え ( 3 )

① 私は これから 始まる 新しい 生活に 期待して、 学校へと 向かう 電車の 中で 一人 ほほえんだ。  
② 遠くの 山の さらに 向こうに 見える 大きな 黒い 雲に 向かって、 カラスは 飛んで行つた。  
③ 大きく はなやかな 絵が 会場の 中心に 設置されて どこか 静かだつた 会場に 一気に はなやかさが 増した。

六、次の一部と同じ種類や用法のものを後のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

① 彼女はピアノを弾くのが上手だ。

ア 兄の 昨日作つた料理を食べました。

イ 山田さんの持つている本は新しい。

ウ 君の来た時間を教えてください。

エ 姉が速く走るのに驚いた。

② チクタクと古い時計が時をきざむ。

ア だんだんと離れていく船を見送つた。

イ どんどんと太鼓をたたく音が聞こえる。

ウ プンプンとよくおこる人だ。

エ てんてんと続く足あと。

③ 二時間ばかり勉強にはげんだ。

エ ウ イ ア  
少しばかりのお礼の品です。  
今出かけたばかりだ。  
きれいなばかりでは役に立たない。  
今だとばかりに攻撃こうげきをする。

〔以下空白〕

解 答 用 紙  
(一)

問四	問三	問一	二	問六	問五	問四	問三	問一	一
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/> i <input type="text"/> ii	<input type="text"/> i	<input type="text"/>	<input type="text"/> a	<input type="text"/>
		<input type="text"/> A		<input type="text"/>	<input type="text"/> II <input type="text"/> III <input type="text"/> IV	<input type="text"/>	<input type="text"/> s <input type="text"/>	<input type="text"/> b	
					<input type="text"/> i	<input type="text"/>	<input type="text"/> c <input type="text"/>	<input type="text"/> c	
		<input type="text"/> B				<input type="text"/>	<input type="text"/> d	<input type="text"/>	
						<input type="text"/>			
		<input type="text"/> C							

が伝わってくるから。

受験番号	<input type="text"/>
総 点	<input type="text"/>
評 点	<input type="text"/>

解 答 用 紙  
(二)

六	五	四	三	問八	問七	問六	問五
① <input type="text"/>	① <input type="text"/>	④ <input type="text"/>	① <input type="text"/>	④ <input type="text"/>	① <input type="text"/>		
② <input type="text"/>	② <input type="text"/>						
③ <input type="text"/>	③ <input type="text"/>	⑤ <input type="text"/>	② <input type="text"/>	⑤ <input type="text"/>	② <input type="text"/>		
		⑥ <input type="text"/>	③ <input type="text"/>	⑥ <input type="text"/>	③ <input type="text"/>		

受験番号	
評 点	